

病棟での臨床栄養実践の未来

あなたの病棟臨床栄養活動を エビデンスにしてみませんか



病棟管理栄養士
介入調査研究

参加施設大募集

近年のわが国の病棟における疾病治療成績は、薬物療法や手術療法の発達により著しく改善しましたが、入院中に食事摂取不良による体重減少、また病態増悪をもたらしている肥満については、放置例もしばしばみられます。また、食事・栄養状態が低下したままで退院する例も多く、再入院、あるいは施設入所が必要な例も少なくありません。

一般に現在の病棟栄養療養は、栄養状態の悪化に気づいた病棟医師、あるいは看護師からの指示により、管理栄養士が病棟に出向き、始まるのが現状です。しかし、本来は入院時に管理栄養士が、すべての患者に栄養診断を行い、入院前の栄養状態や生活習慣等も調査し、必要に応じて、早期から栄養介入することが望ましく、さらに退院後の食事療法の指導も、入院中の食事を用い、十分な説明をすることにより、疾病予後の改善、また在宅での栄養管理不足による、施設への入居が減少する可能性があります。しかしながら、こうした現状を明確に提示するデータは存在せず、何らかの介入を企図しても、その切り口がつかめない状態です。栄養状態に問題のある入院患者が、どのような栄養管理を受け、その結果栄養状態が、どのように変化しているか、病棟での管理栄養士の活動が、実際にどのくらい意味を持つか、に関する客観的データが必要とされています。

そこで、臨床栄養学会 管理栄養士病棟配置推進委員会では、管理栄養士の病棟活動におけるエビデンス構築にむけて、主に次の内容について調査研究を実施することにしました。(1) 管理栄養士の病棟における栄養介入時間と食事摂取、栄養状態の改善ならびに治療効果、(2) 入院後6週、12週後の栄養状態を再評価。本研究に、多くのご施設からご参加をいただくことで、わが国の疾患管理において、管理栄養士が介入すべきタイミングや事項についての、基礎的なデータが得られると期待しています。現在、全国より多数のご施設より、ご協力を頂いております。

あなたも、ぜひ私達と一緒に、管理栄養士の病棟活動におけるエビデンス構築に、参加してみませんか。もちろん、本研究のプロトコルなどの説明を受けて頂いてから、参加するかどうかのご判断を頂いても構いません。まずはご興味のある方、下記メールアドレスまでご連絡ください。

「病棟管理栄養士配置」常駐に向けて

一般社団法人日本臨床栄養学会 管理栄養士病棟配置推進委員会
委員長 菅野 義彦

■連絡先：一般社団法人 日本臨床栄養学会事務局 ■担当：荒井・大道

TEL: 03-5840-6131 FAX: 03-5840-6130 E-mail: info@jscn.gr.jp